

# 専門用語研究

Journal of the Japan Terminology Association

No.18 1999-09

---

二つの工夫+ $\alpha$

—『岩波理化学辞典第5版』の和文索引……………塚 信幸 1

シリーズ特集：分野別専門用語集①

図書館学……………山本 昭  
……………落合佐和子 3

シリーズ特集：Terminology 素朴な疑問—「概念」に関するxつの疑問—

① 学術用語集は用語集か？……………四ノ宮明夫 9

② 1概念に1用語？……………中山 亮一 10

③ 用語はなぜ名詞形ばかりなのか？……………中山 亮一 11

国内刊行用語辞典リスト（1999 前半）…………… 12

『専門用語研究』バックナンバー紹介…………… 17

1999年度専門用語研究会シンポジウムご案内…………… 22

編集後記…………… 24

---

専門用語研究会  
Japan Terminology Association

## 二つの工夫 + α

### —『岩波理化学辞典第5版』の和文索引—

堺 信幸\* SAKAI Nobuyuki

オウムによる地下鉄サリン事件があった。その時、『理化学辞典』にサリンは載っているかどうか、辞典部の職場で話題になった。新聞・雑誌・放送記者などが理化学辞典を引いて調べるのではないだろうか。当時、まだ第4版だった理化学辞典を引くとサリンという項目はない。第4版を担当した先輩の編集者が「確か毒ガスという項目の中にあっただと思う」と言う。毒ガスの項目を読むと、記述中にサリン (Sarin, イソプロポキシメチルホスホリルフルオリド)  $C_4H_{10}O_2FP$  とある。他にタブン、ソマンなどもある。英語索引から引けば Sarin, Tabun, Soman は引けたのだが、誰もスベルを知らないし、考えもつかなかった。記述中の Sarin を見てからはじめて英文索引を引いて、そこに載っていることを確かめるありさまだった。毒ガスの解説文中では、マスタードガス (イペリット) とルイサイトがゴチックになっている。これらは、

マスタードガス [mustard gas] ⇨毒ガス

イペリット [yperite] ⇨毒ガス

ルイサイト [lewisite] ⇨毒ガス

という項目が立っていて、そこから「毒ガス」という解説文のついた本項目を見に行くようになっている。我々は、上のように⇨(矢印)や=(イコール)で本項目を見に行く項目を、「1行項目」と呼んでいる。

あい(藍) = インジゴ

IC = 集積回路

アイコナル [eikonal] = ハミルトンの特性関数

などのようなものが = の例である。

矢印の1行項目をふやせば、サリンも引けたは

ずだった。そういう目でみると、せっかく解説文中に「○○○ともいう」とか、その言葉の定義や説明があるのに=や⇨の1行項目になっていないものが多い。理化学辞典は、いわゆる中項目から成り立っている(先輩はこれを中項目主義という。ちなみに、『広辞苑』は小項目主義、百科事典は大項目主義)辞典である。10行(1行24字)以上の記述が多い。その解説文中には、項目をさらに細分してそれぞれを説明していたりする。また、化学物質名にはほとんど必ずといってよいほど「○○○ともいう」同義語が記述されている。これらを集めて和文索引をつけたら、さらに利便性を増すだろうと考えたのが発端であった。第4版には、1行項目が約3000ある。1ページ120行(2段×60行)だから、約25ページ分である。それを約200行(3段×65行)の索引にすれば、15ページ分になる。「少ないページで大きな効果」が得られる。どうせ2度引かなければならないのなら、はじめから和文索引を引いてもらえばよいのだ。第5版に和文索引をもうけたのは単純化して言えば以上のような理由による。その結果、1行項目約1万と本項目約1万2千で合計2万2千項目からなる和文索引になった。第4版1万4千項目の辞典から第5版2万2千項目の辞典に進化した(ちなみに、本項目の新加項目は約1千である)。第5版で和文索引を引くと「サリン ト112」となっている。

さて、索引づくりは辞典の最終段階での一大作業である。赤字が入ったり、すべりこみの新加項目があったりして項目のページが移動する。第4版の索引は、Sarin 892r となっている。892ページの右の段にあることを示している。右段のどの項目の記述解説中にあるのかはわからない。やは

\*岩波書店 電子出版部部長

り、どの項目中にあるかわかった方が親切というものだ。我社の『岩波生物学辞典第4版』のやり方だと、たとえば毒ガスだったらページを示すと同時にそのページの4番目の項目なのでアルファベットの4番目のdをつけて892dとなる。毒ガスが次のページのはじめに移ってしまったとすると893aとなってしまう。生物学辞典の最終段階で索引づくりに参加したので、ページ移動とそれによる索引の赤字修正の作業が骨身にしみる労働なのはよくわかっていて。コンピュータで把握・処理すれば簡単なのではないかと思われる方がおられるだろうが、そうは問屋が卸さない。いろいろ複雑な事情があって細かいことは省略するが、いずれにしても、項目すべてのページが確定してから索引づくりをはじめめるのでは、発売日に間に合わないのだ。

項目すべてに番号を振ってしまえば簡単に解決できるのではないかと思いついた。それは『広辞苑』のCD-ROMづくりがヒントになったのである。校正の途中で増えたり減ったりしたら、それ以後の番号をずらせばよいだけだ。ページが移動するだけなら番号は変化しない。五十音と番号で項目を特定することにすれば、項目の増減は五十音ごとに止まる。索引づくりの作業が大幅に楽になった。そのうえ、今度の第5版は項目まで特定できる。「毒ガス」は五十音のトの112番目の項目になる。それが「サリン ト112」と表現されている由縁である。

サリンのあとテレビ・新聞などで大きく報道されたのは、和歌山のカレーヒ素事件である。テレビのテロップに出るヒ素の表現が三通りヒ素、砒(ひ)素、ひ素、あった。日本化学会ではヒ素としているのは、ご存じのことと思うが、岩波理化学辞典においても従来、元素名・化学物質名においてはそれに従って来だし、第五版においてもそうである。しかし、ケイ素、フッ素、ホウ素、ヨウ素のほか、スズ、リンは、れっきとした漢字の表記がある。今回の第五版では項目名には、ヒ素〔欧文〕砒素と漢字表記を入れた。どういう漢字だったか理化学を引いたが出ていなかった、入れてほしいという方の意見をとり入れた。教育漢字・常用漢字の制約がある中で、化学会がカタカナで表記せざるを得なかったのは、わかる。ひらがな文字の中にヒ素がひ素では、読みにくいのだろう。それでも、スズやリンともなると日本語なのか外来語なのかも分からない中高生も多くなっているのではないかと心配してしまう。理化学辞典では、上記のようにしたが、広辞苑はどうしたか。ひそ〔砒素・ヒ素〕とした。〔 〕内に表記形を入れたのである。世の中での使われかたに従って、たとえばいたいいたいびょう〔イタイイタイ病〕と広辞苑では表現した。はじめにあえてカレーヒ素事件と書いたが、ヒ素入りカレー事件とした方がわかりやすい。カレーヒ素という元素が新たに見つかったのなら別だが。

シリーズ特集：分野別専門用語集①

## 図 書 館 学

### Review of Glossaries and Dictionaries in Specialized Field;

#### (1) Library Science

山本 昭\* YAMAMOTO Akira

落合佐和子\* OCHIAI Sawako

**Abstract:** Fourteen glossaries and dictionaries in the field of librarianship, library and information science, bibliography, and documentation, which are published in Japanese are reviewed. Number of entries, editorial policy, emphasized subfields, and other characteristics are described. A comprehensive bibliography is attached.

**Keywords:** glossaries, dictionaries, library and information science, bibliography, librarianship, documentation, reviews

#### 概観

本稿では、図書館情報学、書誌学およびその下位分野、関連分野の用語集を取り上げた。図書館学は、人文、社会、自然科学の中の数多くの分野をその関連分野として持つ。「図書館学」「図書館情報学」と銘打つ用語集、辞典類の多くは、図書館業務、ドキュメンテーション、情報検索、などの分野をカバーしており、コンピュータ、科学社会学、印刷・出版の専門用語を収録している。しかし、書誌学分野の用語は、「図書館学」とは独自の体系をかたちづけているため、独自分野として編纂されたものが多い。

最近になって、『日本古典籍書誌学辞典』(1) (1999年、国文学研究資料館)、『図書館情報学用語事典』(11) (1997年、日本図書館学会) など、学会等により組織的に編纂されたものが相次いで出版されたが、従来、図書館学の用語集類には、個人の力でまとめられものが多い。図書館人の熱情と、エネルギーを物語っている。一方で、図書館現場のマニュアル的に作成されたものもいくつか存在する。日本初の図書館学の辞典といわれる、『欧和对訳 図書館辞典』(18)は、1925年発行で、欧(主に英語)和对訳の語彙説明と索引からなる。収録語数は約1050語で、付録として笹岡民次郎

編の近代欧米著述家の雅号と本名の対照表がいたものであった。

発行年により、収録された語の偏りに傾向が見られる。これは図書館学の時代毎の興味対象の移り変わりを反映している。1960年代は図書館運動、70年代はドキュメンテーション、80年代は科学社会学への傾倒が見られる。

また、著名な出版物や書などの、固有名詞的用語を多く含むこともこの分野の特徴の一つである。

#### 各論

##### 『日本古典籍書誌学辞典』(1)

書誌学と古典籍に関する辞典。見出し語約3400語。索引とは別に分野別の項目一覧も載せられている。国文学研究資料館が編集に関わり、1999年3月に出された最新の辞典である。収録用語は、書誌学関連の用語は細かいものまで網羅されている。各用語には分類がつけられ、用語の性質がわかる。近代以前に時代を限定し、『国書総目録』、『古典籍総目録』に収録された国書に対応した辞書として刊行された。

##### 『図書館学・書誌学辞典』(2)

図書館学と書誌学に関する辞典。見出し語約4200語。英和・仏和・独和・露和の対訳索引がある。全体の約3分の1を占める索引は、本文以上に利

\*國學院大學

用価値が高い。最終改訂が1967年のため情報は新しいものではない。

『図書・図書館用語集成』(3)

見出し語2441語。日本語索引のほか、漢字画数索引がつく。学生、図書館現場の新人向けに、「古典籍が読めるように」という目的で作られており、内容は古典寄りであるが、「アイソレート・フォーカス」のような、分類学上の用語なども広く含む。

『図書学辞典』(4)

書誌学の大家、長澤氏がまとめたもの。索引で1870語を収録。難読語の総画索引が付いている。「和漢書誌学用語早わかり」とのサブタイトルが内容を示している。「序説」「装丁」等の大項目にまとめられた事典形式。小型ながら、用語の定義、解説のほか、参考文献も載っている。

『図書館用語集』(5)

日本図書館協会による図書館学に関するポケットサイズの用語集。見出し語778語、索引約2000語。見出しには欧文も収録されている。図書館業務とコンピュータに関する用語が収録しており、初学者から実務者まで広い範囲の人々を対象にしている。

『情報図書館学用語辞典』(6)

構成は頭字語および略語の部と、一般用語に別れており、見出し語は約3300語。日本語と英語の二部構成になっている。手軽に語句を調べるために存在していて、より詳しくより深い知識を得るためにはそれぞれ専門の辞書または辞典を見る必要がある。しかし一方で専門外の利用者にも役立つ辞典である。

『最新図書館学事典』(7)

見出し語3728語。体系索引あり。付録に「図書館法」などの法規を載せている。「近代的な図書館学に対する基礎的理解」を目的としているが、図書館業務に密着した語を多く収録している。実務では必ず出くわす、団体名等の固有名詞も多い。団体等には15年の間の変化は多く、やや古さを

感じる。

『図書館用語辞典』(8)

図書館員を中心とする団体、「図書館問題研究会」により、組織的に作成されたもの。見出し語約1900語。英語索引および体系索引が付く。公共図書館、図書館運動、図書館のポリシーに関わる語に重点が置かれている。解説文は、短いものから、事典的なかなり長いものまで語によってさまざまである。

『洋書事典』(9)

見出し語157語、索引453語。図書館員としてのキャリアを持ち、旧図書館短大で教鞭を執った木寺氏が個人でまとめたもの。図書館の業務で洋書を取り扱う際に必要な語、固有名詞を集めている。英語の見出しに日本語訳がつく。英語、日本語の索引あり。「図書の各部」「図書の種別」、「著名参考資料」などのカテゴリー別に編成されている。四半世紀近くたっているが、さほど古さを感じさせない。

『学術用語集：図書館情報学編（文部省）』(10)

1958年に刊行された『学術用語集・図書館学編』(15)の39年ぶりの改訂。2116語収録。訓令式ローマ字による配列、定義・説明等を省いた和英、英和対訳形式など、文部省学術用語集独特の構成を持つ。「目録」「索引・検索」など、8の専門分野に分けられている。各専門分野間のバランスはよく考えられている。編集は日本図書館学会で、次にあげる『図書館情報学用語辞典』(11)編纂の源となった。しかしながら、同辞典の発行された現在では、あえて本書を入手する価値はほとんどないだろう。

『図書館情報学用語辞典』(11)

『学術用語集：図書館情報学編』(10)の編集に関わっていた、日本図書館学会（現：日本図書館情報学会）が、同用語集に収録された語を解説するために「用語辞書編集委員会」を設け、作成した。『学術用語集』が2116語に対し、1511語になった。現行では、図書館情報学分野での最も標

準的な辞書である。コンパクトながら解説文も必要十分な詳しさがある。書誌学に関する語で図書館業務に関わらない語は含まない。

『ALA 図書館情報学辞典』(12)

ALA (米国図書館協会) の発行するスタンダードな用語集。原著『The ALA glossary of library and information science』(16)。見出し語約 4000 語。米国の図書館員向けに作られたものであるが、「図書館」の定義などは、多くの図書館学の教科書にも引用される。米国図書館界の基本的視点を代弁している。図書館業務分野とドキュメンテーション分野の語が1982年当時のバランスで収められている。大変丁寧に翻訳されているが、訳者あとがきにもあるように、用語集の翻訳には独特の問題がある。英語の「book」の定義に、「白紙の紙を綴じたもの」も含まれるが、日本語の「図書」の定義には含まれない。しかしここでは英語を中心にそのまま訳している。前回の改訂は40年ぶりだったそうだが、本書もすでに17年になる。

『ユネスコ情報管理用語集』(13)

UNESCO の『Terminology of documentation』(17)の日本語訳。見出し語 1185 語。日英仏独露の索引付き。英独仏露の対訳形式の原著に日本語訳を付加した形になっている。「文献の類型」、「索引法と索引」などの分類ごとにアルファベット順配列で編成され、さらに、RT, BT-NT 等、シソーラス的参照があり、UDC も付与されており、さすがドキュメンテーション分野の用語集らしい。内容は、情報学、データベース、インデクシング、科学コミュニケーションツールなどが中心になる。図書館関係の用語はほとんどない。原著も1976年以降改訂がなく、この日本語版も今や入手困難である現状は、この分野にとって大きな不幸である。

『サーチャー用語集』(14)

情報検索に関する語句を収録。見出し語 900 語。日本語と英語の索引がある。日外アソシエーツが編集。データベース検索技術者認定試験を受験する人は知っておかなければならない用語を解説し

たものである。発行が、インターネットが普及する前の1993年なので、そろそろ新版が欲しいところである。

文献リスト

- 1 日本古典籍書誌学辞典  
井上宗雄[ほか]編著. 岩波書店. 1999-3. 677p.
- 2 図書館学・書誌学辞典  
植村長三郎編著. 有隣堂. 1967-10. 761p.
- 3 図書・図書館用語集  
渡辺正亥著. 近畿大学印刷局. 1983-3. 492p.
- 4 図書学辞典  
長澤規矩也編著. 三省堂. 1979-1. 216p.
- 5 図書館用語集  
日本図書館協会図書館用語委員会編集. 日本図書館協会. 1988-1. 423p.
- 6 情報図書館学用語辞典  
田辺広編. 雄松堂出版. 1984-2. 375p.
- 7 最新図書館学事典  
草野正名編著. 学芸図書. 1984-5. 287p.
- 8 図書館用語辞典  
図書館問題研究会編. 角川書店. 1982-10. 793p.
- 9 洋書事典  
木寺清一著. 明治書院. 1975-9. 264p.
- 10 学術用語集 図書館情報学編  
文部省, 日本図書館学会 [編]. 丸善, 1997-3. 172p.
- 11 図書館情報学用語辞典  
日本図書館学会用語辞典編集委員会編. 丸善. 1997-9. 252p.

12

ALA 図書館情報学辞典

Heartsill Young[編].丸山昭二郎 [ほか] 監訳.  
丸善. 1988-9. 343p.

13

ユネスコ情報管理用語集

日本ドクメンテーション協会 [訳編]. 日本科  
学技術情報センター. 1984-2. 310p.

14

サーチャー用語集

サーチャー用語研究会編. 日外アソシエーツ.  
1993-1. 173p.

15

学術用語集: 図書館学編

文部省[編].大日本図書. 1958-5. 303p.

16

The ALA glossary of library and information  
science

Heartsill Young,editor ; with the assistance  
of Terry Belanger[et al.].

American Library Association. 1983. 261p.

17

Terminology of documentation: a selection of  
1200 basic terms published in English,  
French, German, Russian, and Spanish  
compiled by Gernot Wersig and Ulrich  
Neveling. The Unesco Press. 1976. 274p.

18

図書館辭典: 歐和對譯

間宮不二雄編. 文友堂書店. 1925.

19

ロシア語図書館関係用語集 第2版

佐野幸平編. 宮城県大学図書館協会. 1998-4.  
195p.

20

日・中・英対訳図書館用語辞典

吉村善太郎編. 雄松堂出版. 1997-7. 339p.(雄  
松堂ライブラリー・リサーチ・シリーズ 3)

21

文書館用語集

文書館用語集研究会編. 大阪大学出版会. 1997-  
11. 172p.

22

図書館用語集 改訂版

日本図書館協会用語委員会編集. 日本図書館協  
会. 1996-8. 433p.

23

ロシア語図書館関係用語集

佐野幸平編. 宮城県大学図書館協会. 1995-8.  
234p.

24

パソコン通信のためのデータベース検索事典

鈴木尚志監修; 相馬幸治著. 日外アソシエーツ.  
1993-10. 568p.

25

データベース・情報検索用語辞典

日外アソシエーツ編. 1993. CD-ROM 1 枚  
(Electronic Book : EB)

26

データベース標準用語事典

穂鷹良介[ほか]共著. オーム社. 1991-10. 258p.

27

最新データベース活用事典

データベース研究所. 講談社. 1990-9. 288p.  
(講談社ビジネス)

28

フランス図書館関係用語集

日仏図書館学会編. 日本図書館協会. 1990-1.  
85p (日仏図書館研究シリーズ ; No.3)

29

図書・図書館用語集成

渡邊正亥著. 近畿大学. 1984.

30

図書館コンピュータ用語集

札幌市澄川図書館編集. 札幌市中央図書館.  
1984-5. 78p.

31

新学校図書館事典

室伏武 [ほか] 編. 第一法規出版. 1983-9.  
467p.

32

現代学校図書館事典

深川恒喜 [ほか] 編著. ぎょうせい. 1982-10.  
841p.

- 33  
日中対照図書館関係用語集(稿)  
国立国会図書館参考書誌部. 1982-8. 84p.
- 34  
日本書誌学用語辞典  
川瀬一馬著. 雄松堂書店. 1982-10. 351p.
- 35  
用語篇  
図書館問題研究会用語委員会編著. 図書新聞.  
1981-4. 240p.
- 36  
図書館用語ハンドブック  
教育出版センター. 1978-4. 165p. (講座新図書館学 / 図書館科学会編 ; 別巻)
- 37  
書物語辞典 : 英(独・佛・羅)-和  
八木佐吉編著. 丸善. 1976-6. 262p.
- 38  
総合情報管理事典  
情報管理研究委員会編. 日本経営出版会. 1974-3. 595p.
- 39  
和漢書誌学用語解説稿  
私立大学図書館協会東地区部会研究部書誌学分会.  
1974. 34p.
- 40  
学校図書館小辞典  
加茂弘著. 岩崎書店. 1974. 205p.
- 41  
学校図書館事典  
深川恒喜[ほか]編. 第一法規出版. 1966-9.  
467p.
- 42  
ドキュメンテーション用語集 邦訳版  
日本図書館協会編. 日本図書館協会. 1963-12.  
118p.
- 43  
歐・中・和対訳図書館大辞典 : 図書館・書誌・印刷・製本用語 改訂増補版  
間宮不二雄編. ジャパンライブラリービューロー.  
1952-9. 661p.
- 44  
圖書・圖書館事典  
植村長三郎著. 文徳社. 1951-10. 599p.
- 45  
實務必携図書館用語辞典  
中村初雄編. 同學社. 1951-4. 126p.
- 46  
書誌學辭典  
植村長三郎著. 教育圖書. 1942-8. 602p.
- 47  
圖書館用語集  
帝国大学付属図書館協議会. 1935-7. 36p.
- 48  
英和図書及図書館語彙  
小河次吉著. 丙午出版社. 1927. 360p.



## シリーズ特集：Terminology 素朴な疑問

### —「概念」に関するxつの疑問—

今後、下記のようなテーマを取り上げてまいります。会員各員からのご寄稿をおまちしております。

- テーマ案
- 「学術用語集」は用語集か？
  - 1概念に1用語？
  - 用語はなぜ名詞形ばかりなのか？
  - 概念は言語に依存しない？
  - 用語の統一は言論の自由を侵す？
  - 図やアイコンは用語？
  - 定義は可能？
  - 専門用語なしに専門コミュニケーションは成り立たない？
  - 分野間での「ハーモナイゼーション」は可能？
  - その他

原稿の長さ 刷上り半ページから1ページ程度の長さ（800字から1,500字）

原稿締切り 第19号（2000年3月発行予定） 2000年1月末

シリーズ特集：Terminology 素朴な疑問 — 「概念」に関する×つの疑問— ①

## 学術用語集は用語集か？

四ノ宮 明夫\* SHINOMIYA Akio

私の疑問はただ一つ。

「学術用語集は実際、誰がどのように使うのか」

学術用語集の編集過程はこの会誌でも紹介された。しかし、どう使っているかは不明だ。この疑問は、私が編集委員になってから持ったものだ。私は編集委員になって4年ほどたった。幸か不幸か、ターミノロジーについては今も素人だ。何をやるのかよくわからない。この意味では編集委員の資格はない。ターミノロジーとは何か、という探究心が私の編集哲学だ。

編集会議ではいくつかの用語集も見た。また、シンポジウムにも参加した。ものとして存在する用語集は格好の材料だ。苦労話つきない。

その中で学術用語集は異質な存在だ。私は「図書館情報学」を持っている。用語としては日常生活に一番近い。載っているのは、ローマ字で書かれた読み、日本語の用語、英語の用語、の三つだけだ。

私が考える現実的な使い道は一つ。

「日本語から英語へ、英語から日本語へ、翻訳」

する道具としてだろう。しかし、これとて限界がある。標準化というフィルターを通してため、見つからない用語がある。参照機能がないので探せない。翻訳の参考図書の一つとしては機能するだろう。

私は研究者でも専門家でもないのに、学術用語集の利用対象者には入らない。したがって使用の実感がわからないのも当然だろう。では教えてほしい。この意味や概念の説明がない用語集を、専門家はどう使うのか。

最後に、素人的に考えるとおいしいと思う。作成過程では数多くの用語が、意味とともに飛び交っていたと思う。どうせなら、似たような用語をすべて載せ、うち一つを標準用語として示し、ついでに内容や概念も説明してくれると、ぐっと使いやすくなる。頭の中で何かを考えると、誰かと議論するとき、言葉ではとうてい表現できない思考内容、概念を描いている、と私は考える。用語の羅列だけではヒントにならないし、他分野や外国の人との意見交換にも役に立たない……。

\*大正製薬㈱臨床開発部

シリーズ特集：Terminology 素朴な疑問 — 「概念」に関する×つの疑問— ②

## 1 概念に1用語？

中山 亮一\* NAKAYAMA Ryoichi

この様な、体言終わりの表現は、字数を節約したい字幕に於いて、ナレーション部分よく使われるが、正確を期するならば、やはり述語を補いたい。何故ならばA「である」、B「が望ましい」、C「とは限らない」の3つの命題について論ずる必要が出て来るからである。

A； 全く人工的に作られた言語に、エスペラント語がある。折角こしらえたからには、1概念に、1用語の対応が完成するチャンスであった筈であると考えても自然であろう。しかし残念ながら勉強不足で、その様に構成されているのかは、わからない。ただ作成に当たり、多くの国語、言語を参考にしていれば、かなりの程度で、この命題に近しい例であると思われる。

B； 現実の生活に於いて「右折禁止」の表示では、右に曲がらない事で安全が保たれる。となれば、やはり右は、あくまで、まっすぐ前や左とは違う。但しこれは正確な十字路が前提にあっての話で、複雑な交差点では、十分にその意味を現し得ない。即ち何かを選択する際、間違いないためには、確かに1対1になっていれば便利である。

もう1つは、翻訳の場合、特に機械的に実施したい時にはそうである。即ち単純化を前提にして、速度を、効率を上げようとする訳であるが、mineが「私の物」であり、「鉱山」である現実からは、文法の要素を加えて、やっとなんかから逃れているのが、現状である。

それならば、どの様な範中の人物が、この主張をするのであろうかと言えば、現に国際標準機構の関係機関が、用語の対応表を作成する過程に於いて、各国に出した通達には、1語と限定している。また法律の文には、学術用語として決定した

語を、使用するととなっている。

C； 良く知られている事実として、日本語には、大和言葉と共に、漢語を語源とする言葉、及びその混じった言葉がある。また英語にも、ゲルマン語と、ラテン語の2種類の系統がある。

従って、現実問題として、この命題は成立しがたい様に思える。前述の学術用語と法律の関係に於いて、その様な原則が、現実の前に破られてしまっている。確か、ラディエーションの訳語に対しては、幅射と放射が、相譲らない。また太田泰弘氏の説明に依れば、所管の官庁によって「じゃがいも」と「ばれいしょ」を使い分けなければならないそうである。超電導と超伝導の対立も現象は1つである。更に表現を拡大するならば、緑に関して「緑の黒髪」と言った場合にはどうするか、「それは真っ赤な嘘である」と、洒落の様に皮肉にも聞こえる文を例題に取り上げる事も可能となる。厳密に考えて「春雷（しゅんらい）」と「春（はる）の雷（かみなり）」を同じに扱えるかとなる。compromiseを日本語では、妥協と訳すが、英国的には、積極的に大人として手を打つ感覚があり、アメリカでは、説得され負けしてしまったのかと言われる。また、時代とともに言葉の使い方が変化する。日本語でも「全然」を否定にしか使用しなかった昔に比べ、肯定として「全然良かった」と表現したら同じ概念であると言いきれるか問題である。

かくして、1概念に2語以上、1語に2概念以上が、現実の姿であると考ええる。

\*リョウ・プロダクション

シリーズ特集：Terminology 素朴な疑問 — 「概念」に関する×つの疑問— ③

## 用語はなぜ名詞形ばかりなのか？

中山 亮一\* NAKAYAMA Ryoichi

これは問題提起の時点に於いて誤っている。用語は言語、語句であるから、少なくとも「多くの用語集は、なぜ名詞形での表示を採用しているのか」位な質問文にしない限り、意図が伝わらない。それにしても、これは大変に難しい質問である。答にならない答を書いてみる事にする。

ちなみに、日本語は名詞しか使わない原則で始まっているのが、日本のクロスワードである。それでいて英語の単語は仮名書きで、動詞を始めとして形容詞、副詞等を、平気でつかって差し支えないのだから、面白いとも奇妙とも言える。

英語の場合には、動詞と名詞が同じ綴りの単語が存在する。さらに tion, ing など、または to を使って、名詞形をわざわざ作るけれども、日本語に於いては、漢字と言う、それ自体に意味を持つ実に便利な表示方法があるので、これの組み合わせで、大変名詞形が作り易い。また仮名がある事で「動く」に対し「動き」と品詞を変化させ易い。

ここに歴史的な検討、決定の経緯の資料が手もとに無いので、どなたかに伺いたいのであるのだけれども、読み易くするためか、名詞に色々な形が混在する。

ここで本題から少し離れ具体的な形に触れてみる事にする。

例えば、一般的な「祭り」は、「り」を付けるにもかかわらず「ぎおんまつり」は「祇園祭」と「り」を送らない。「食べ物」と「食物(しょくもつ)」は、同じ概念に表現の異なる2語があることになる。

この送り仮名を入れる場合の目的として、「組み合わせ」と「組合」を区別したい意図があるのか、「読み書き」と「読書」も同じ方法の表記を

する。

ところが、もう一方で、特例が結構あり、「借方」は「借り方」ではないし、「建具」も「建て具」ではない。「縄張」にも「り」はない。この辺りの問題は、テーマ②の「1概念に1用語？」にも深く関係してくる筈である。

また建立は「こんりゅう(神社・仏閣の場合)」と同じ概念に2つの読み方がある例である。

本題に戻って一体、用語集とは何であるか。用語を集めた物であるとすれば、確かに学術用語集は、説明文無しの名詞だけが並んでいるし、他の用語集も、それに準じている。では、同じ用語が並んでいる、いわゆる辞典、広辞苑、言泉等の辞書は、用語集ではないのか。そちらには、動き、動く、動かすと、自動詞、他動詞が採用されている。そしてまた一方では、『電子情報通信用語辞典』には、説明文まで付いているが、採用されている約12,000語は、総て名詞形である。それなら用語集が、名詞形で十分かと言うと、変調波は、ある信号波を、別の波で変調をかける時に、変調する波か、かけられる波か、または既に変調された波か、正直な所わかりにくい。しかし言葉を取り挙げ、これを並べる際、非常に単純な発想であるけれども、現実的に対象とする言葉には、具体的な物の名前等名詞が多いこと、さらに、動詞も動作としてとらえ、抽象概念を対象にすると、名詞形にしておく事ができ、幅広く用語を羅列するのに便利であるに違いない。形容詞や副詞は、あくまで修飾語であるために言葉の主流派とはなれない。これらの要素から見た目からも、商品価値を上げる上で、無意識に名詞形が自然に採用されたに過ぎないと言う結論に達する。

## 国内刊行用語辞典リスト(1999 前半)

### 凡 例

#### 収録範囲

前号(第17号)収録以降(1999年1月から1999年6月)に国内で発行された専門用語辞典(集)を収録した。新語辞典、国語辞典、古語辞典、方言辞典などは収録対象としていない。

#### 2. 情報源

Kinokuniya和書データベースBook Webほか

#### 3. 書誌記述

記述項目は、書名、著者(编者)名、出版社名、出版年月、ページ数、価格、国際標準図書番号(ISBN)とした。

#### 4. 配列

日本十進分類法(NDC)にしたがって、分類順に配列した。

#### 5. 例示

分類見出し	件名						
↑	↑		書名				
007	情報処理		↓				
	コンピュータ技術基礎用語事典						
	新電気編集部.	オーム社.	97-12.	248p.	2,800円.	ISBN:4274945952	
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
	著者(编者)名	出版社名	出版年月	頁数	価格	ISBN	

#### 6. その他

このリストについてのご意見やお問い合わせは、編集委員会までお寄せください。

#### 007 情報処理

##### 標準パソコン用語事典(2000年版)

秀和システム出版編集部. 秀和システム. 99-05. 894p. 1,600円. ISBN:487668885

##### Macintosh 最新なんでも用語事典 '99-2000

技術評論社. 99-04. 482p. 1,980円. ISBN:4774107522

##### Macintosh 用語事典 2000年版

MacPower編集部. アスキー. 99-04. 574p. 2,200円. ISBN:4756130542

##### 2種情報処理(国家)試験標準用語事典 共通カリキュラム

コンピュータ・エージ社. 99-04. 579p. 3,600円. ISBN:4875661924

**最新パソコン用語事典 '99-2000年版**

大島邦夫. 技術評論社. 99-03. 765p. 1,580円. ISBN:4774107387

**Windows98 用語辞典**

高作義明、田中真由美. 新星出版社. 99-01. 254p. 1,300円. ISBN:4405056536

05 雑誌

**英和アメリカ雑誌関連用語集**

星川正秋. アメリカ出版研究会. 99-06. 57p. 1,000円. ISBN:4915085082

180 仏教

**仏教用語事典コンパクト版**

須藤隆仙. 新人物往来社. 99-07. 424p. 4,800円. ISBN:4404028180

290 地理

**地域研究のための英和用語辞典**

石田寛. 古今書院. 99-02. 590p. 22,000円. ISBN:477225028X

319 外交・国際

**国際情勢ニュースワイド 1990→2000最新情報&用語事典**

時事総合研究所. 99-05. 331p. 1,800円. ISBN:4788799197

**英日国際会議用語辞典**

松岡佑子、ウィンター良子. 静山社. 99-04. 79p. 2,000円. ISBN:4915512363

324 不動産

**日経文庫 不動産用語辞典 5版**

日本不動産研究所. 日本経済新聞社. 99-02. 213p. 900円. ISBN:4532012465

**不動産取引用語辞典 5訂版**

不動産適正取引推進機構、不動産流通近代化センター. 住宅新報社. 99-06. 371p. 2,200円. ISBN:478922094X

335/336 経営

**基本経営学用語辞典 改訂増補版**

大橋昭一、吉田和夫. 同文館出版. 99-04. 322p. 2,500円. ISBN:4495357123

**現代英和会計用語辞典 改訂版**

小川冽、鎌田信夫. 同文館出版. 99-04. 340p. 2,500円. ISBN:4495153927

**英和英法律・会計・税務用語辞典 新版**

アイ・エス・エス. Wave出版. 99-04. 646p. 8,900円. ISBN:4872900510

338 金融

**金融・証券・経営用語辞典 英和対照**

森脇彬. 税務経理協会. 99-03. 284p. 4,200円. ISBN:4419032359

**金融・経済用語辞典（銀行実務用語シリーズ）改訂**

経済法令研究会. 99-03. 527p. 3,500円. ISBN:4766814436

**財務用語辞典（銀行実務用語シリーズ）四訂**

経済法令研究会. 99-04. 490p. 3,200円. ISBN:4766814401

**日経文庫 株式用語辞典**

日本経済新聞社編. 日本経済新聞社. 99-06. 187p. 950円. ISBN:4532011027

**カードクレジット用語辞典 和英対照**

日本カードビジネス研究会. 近代セールス社. 99-04. 260p. 2,600円. ISBN:4765006794

**360 社会学**

**出る順社労士シリーズ 出る順社労士 横断用語集**

東京リーガルマインド法律総合研究所社会保険労務士試験部. 東京リーガルマインド.  
99-02. 1,800円. ISBN:4844985728

**社労士合格ポイント用語集**

東京法経学院出版. 99-03. 367p. 2,600円. ISBN:4808962470

**社会福祉基本用語集**

シリーズ・21世紀の社会福祉編集委員. ミネルヴァ書房. 99-04. 213p. 1,500円.  
ISBN:4623030385

**学習と研究と実践のための介護・保健・福祉関連最新基礎用語集—多項目5000語収録**

白佐俊憲. 山藤印刷出版部; 川島書店発売. 99-04. 366p. 2,650円. ISBN:4761006951

**介護福祉用語事典**

介護福祉士受験対策研究会. 棋苑図書. 99-04. 269p. 3,300円. ISBN:4873651379

**社会福祉士・介護福祉士のための用語集**

古川孝順、定藤丈弘. 誠信書房. 99-06. 593p. 3,300円. ISBN:4414605229

**370 教育**

**英和・和英学校教育用語集**

教育開発研究所. 99-04. 216p. 1,800円. ISBN:487380308X

**430 化学**

**Basic英和・和英有機化学用語集**

平尾俊一. 化学同人. 99-04. 524p. 2,800円. ISBN:4759808051

**490 医学**

**医薬実務用語集 第12版**

薬事日報社. 99-01. 435p. 3,300円. ISBN:4840805334

**ハンディ医学用語辞典—メディカルワーカーのための**

酒井義浩（編集責任）、木下真男、酒井義浩、山沢筈宏（執筆）. 東京都栄養士会編.  
第一出版. 99-01. 290p. 2,900円. ISBN:4804108602

**英和・和英 科学療法用語集**

日本化学療法学会. 篠原出版. 99-03. 198p. 3,000円. ISBN:4879491748

**整形外科学用語集 第5版**

日本整形外科学会. 南江堂. 99-04. 537p. 3,800円. ISBN:4524220178

**血液学用語辞典**

平井久丸. フジメディカル出版. 99-04. 317p. 4,000円. ISBN:4939048004

**和英西仏医学看護用語集 第3版**

国際看護交流協会. メディカルフレンド社. 99-05. 236p. 2,500円. ISBN:4839228043

**眼科用語集**

医学書院. 99-05. 2,000円. ISBN:426013762X

**脳波・筋電図用語事典 (新訂第2版)**

堀浩ほか. 永井書店. 99-06. 445p. 7,000円. ISBN:4815915768

**消化器学用語辞典—食道・胃・腸**

佐藤信紘 (監修)、川野淳、三輪洋人 (編). メディカルレビュー社. 99-06. 446p.  
4,571円. ISBN:4896002679

**心身医学用語辞典**

日本心身医学用語委員会. 医学書院. 99-06. 2,200円. ISBN:4260136453

**リウマチ学用語集**

日本リウマチ学会編. 南江堂. 99-06. 265p. 3,700円. ISBN:4524217967

**500 工学・技術**

**保全技術用語辞典**

保全技術者連盟. 科学図書出版; 科学評論社 (発売). 99-03. 254p. 2,980円.  
ISBN:4774107220

**510/520 土木・建築**

**土木用語大辞典**

土木学会 (編). 技報堂出版. 99-02. 1,656p. 50,000円. ISBN:4765510042

**英日中建築・土木用語辞典**

工業調査会. 99-04. 1136p. 15,000円. ISBN:4769370717

**544 電気**

**電波・テレコム用語辞典 改訂第7版**

電気通信振興会. 99-01. 2,600円. ISBN:4807602055

**電験用語辞典**

日刊工業新聞社. 99-05. 325p. 3,400円. ISBN:4526043850

**電子情報通信用語辞典**

電子情報通信学会. コロナ社. 99-07. 1,280p. 14,000円. ISBN:4339007064

**プリント回路技術用語辞典**

日刊工業新聞社. 99-01. 299p. 2,800円. ISBN:4526042730



547/549 情報通信

戸根勤のコンピュータネットワーク用語事典

戸根勤. オーム社. 99-02. 534p. 2,400円. ISBN: 427406297X

EMC用語集 '99年版

オートレビュー社. 星雲社(発売). 99-05. 65p. 952円. ISBN:4795245835

映像情報メディア用語辞典

映像情報メディア学会(編). コロナ社. 99-01. 514p. 6,400円. ISBN:4339006963

550 海事工学

英和对訳IMO標準海事通信用語集

運輸省海上技術安全局船員部(監修). 成山堂書店. 99-02. 370p. 3,800円.  
ISBN:4425170911

574 セラミック

セラミック材料用語辞典

柳田博明. 工業調査会. 99-06. 434p. 6,000円. ISBN:476937075X

620 園芸

ビジュアル園芸・植物用語事典

土橋豊. 家の光協会. 99-02. 205p. 2,400円. ISBN:4259539116

830 英語

英語学用語辞典

荒木一雄. 三省堂. 99-01. 900p. 5,300円. ISBN:4385151733

～付録～

---

この辞書・辞典が面白い!

室伏哲郎監修. トラベルジャーナル. 99-06. 157p. 1,200円. ISBN:4895594556  
「辞書」「事典」「図鑑」ベストランキング

---

国語辞書や英語辞書から日本語の起源・日本の地名・考古学などの事典、図鑑、電子辞書まで 270冊におよぶ様々な辞典類をジャンルごとにランキングするとともに、その楽しみ方を紹介する。

## 『専門用語研究』バックナンバー紹介

全バックナンバー(No.1-18)の目次をご紹介します。すべての号を在庫しております。入手ご希望の方は、事務局までご注文ください。1号 500円

### No.1 1990-08

巻頭言「専門用語研究」発刊にあたって	大塚 明郎	表1
シンポジウム特別講演 民族服飾と専門用語	大丸 弘	1
シンポジウム講演 日本工業規格における用語規格	東 秀彦	5
シンポジウム講演 辞書編纂と専門用語	倉島 節尚	10
寄稿 日本の医学用語についてのおぼえ書き	大島 智夫	18
提言 専門用語について－われわれが扱う範囲	大塚 明郎	22
提言 専門用語研究会の将来構想試案	長山 泰介	23
提言 専門用語研究会の役割	細野 公男	25

### No.2 1991-01

シンポジウム特別講演 ターミノロジーに関する国際的・地域的協力	C. Galinski	1
シンポジウム 専門用語としての日本語	司会 香川 靖雄	12
	講師 鈴木 孝夫・山田 尚勇	
資料:JIS用語規格の動き		55

### No.3 1991-05

シンポジウム 日本語教育・外国語教育における専門用語		
専門用語の性格	玉村 文郎	1
大学の理工系日本語教育	山崎 信寿	7
技術研修生の日本語教育	水野マリ子	14
理工系のための英語教育	中村 幸雄	20
機械翻訳と専門用語	下田 宏一	27
専門用語を抜き出す試み	石井 正彦	32

### No.4 1992-04

シンポジウム: 外来語か訳語か?	司会 香川 靖雄	1
	講師 花田 岳美・青戸 邦夫・牧野 正久	
パソコンを利用したターミノロジー・ファイル/ その有用性と限界	佐々木由香	32
第3回Infotermシンポジウム: 主題別のターミノロジー活動		45
資料: 学術用語審査基準(平成4年1月10日改正)		49
資料: JIS 用語規格制定の動き		53

### No.5 1993-07

第6回専門用語シンポジウム記録: 専門用語の生態学		
会長あいさつ	大塚 明郎	1
シンポジウム: 専門用語の生態学		2

講演1 専門用語辞典の体系的構成法	長尾 真	3
資料：専門用語辞典作成法試論		10
講演2 用語の造語メカニズム	日高 達	20
講演3 専門用語の命名における諸問題	森岡 健二	26
パネルディスカッション	司会 横井 俊夫	33
	パネリスト 長尾 真・日高 達・森岡 健二	

No. 6 1994-02

小特集 専門用語集の作り方(1)		
「小特集 専門用語集の作り方(1)」にあたり	編集委員会	1
専門用語集の理想	柴田 武	2
用語集の作成にあたり検討すべき諸項目の現状	中山 亮一	6
テレビジョン技術用語制定の経緯	中村 欽雄	11
医薬品名辞書ファイルの構築と利用	大関 恵子	19
TKE'93ターミノロジーと知識工学会議'93	藤原 譲・門條 司・平井 歩実・仲本秀四郎	25
国内刊行専門用語辞典リスト(1992)	編集委員会	30
JIS 用語制定の動き	太田 泰弘	41
書評「日本語学一特集：語彙分類・意味分類」	光富 健一	44
新刊雑誌紹介「TERMINOLOGY」	影浦 峯	46

No. 7 1994-06

第7回専門用語シンポジウム記録：専門用語の作られ方		
講演1 専門用語の語構成	宮島 達夫	1
講演2 医薬品の一般名の作られ方	竹中 祐典	6
講演3 翻訳用語集の作成と管理	松下 巖	13
パネルディスカッション	司会 横井 俊夫	18
	パネリスト 宮島 達夫・竹中 祐典・松下 巖	

No. 8 1994-10

小特集 専門用語集の作り方(2) 事例報告		
「小特集 専門用語集の作り方(2)」にあたり	編集委員会	1
建築学用語辞典の編集	守谷 秀夫	2
生体工学用語のJIS	香川 靖雄	7
医学用語辞典の編集	開原 成允	14
投稿規定		21
入会案内・編集後記		22

No. 8 サプリメント 1994-10

大塚明郎会長を偲ぶ		
大塚明郎氏略年譜		1
追悼録		3
大塚明郎先生と学術用語の制定・普及	青戸 邦夫	4
大器大塚会長を偲ぶ	川島 勝	6
大塚先生とローマ字表記	太田 泰弘	7
OWAKARE NO KOTOBA	Sibata Takesi	8

大塚先生を偲んで	田中 康仁	11
ボラニーとの出逢い	仲本秀四郎	13
大塚先生を悼む	長山 泰介	14
<b>No. 9 1995-03</b>		
会長をお受けして	柴田 武	1
第8回専門用語シンポジウム記録：ターミノロジーを再検討する		
電子図書館における専門用語の課題	三日市紀子・石川 徹也	3
言語研究からみた専門用語の課題	石井 正彦	11
知識情報からみた専門用語の課題	藤原 譲	18
パネルディスカッション	司会 横井 俊夫	22
	パネリスト 石川 徹也・石井 正彦・藤原 譲・井上 如	
国内刊行専門用語辞典リスト(1993-1994)	編集委員会	24
JIS 用語制定の動き	編集委員会	38
投稿規定		
<b>No. 10 1996-01</b>		
座談会 学術用語集作成の問題点 青戸 邦夫氏を囲んで(1)		1
FID 東京大会から		
カテゴリー2(Information Science of Classification and Terminology)を中心に		
発表論文の紹介		11
EDR 電子化辞書と情報科学	横井 俊夫	12
用語データベース設計の基本方針	佐々木由香 ゲオルグ・J. アンカー	17
抄録による紹介		29
専門用語研究会アンケート 集計結果		32
投稿規定		36
専門用語研究会のご案内		37
編集後記・投稿規定		38
<b>No. 11 1996-03</b>		
座談会 学術用語集作成の問題点 青戸 邦夫氏を囲んで(2)		1
第9回専門用語シンポジウム記録：国際関係とターミノロジー		
専門用語としての和製英語	柴田 武	11
専門用語の中国語と日本語の比較	周 艶華	15
国際開発とターミノロジー		
—「国際開発」データベースプロジェクト中間報告—	佐々木由香	20
食品名の用語化、規格化、国際化	太田 泰弘	31
国内刊行専門用語辞典リスト(1995)		41
JIS 用語制定の動き1995		47
編集後記・投稿規定		48
<b>No. 12 1996-10</b>		
特集：私の見たターミノロジー		
特集にあたって	編集委員会	表2
ターミノロジーとは何か	藤川 正信	1
理想的な学問としてのターミノロジー	竹中 祐典	9

生命科学の用語における情報科学の導入	香川 靖雄	10
エスベラントとテルミノロジー	ヤマサキ セイコー	12
仏教美術のターミノロジー	森口 稔	13
ターミノロジー：素人から一言	ウルリッヒ・ワッテンベルク	15
ターミノロジーの考え方は医学用語ではどうか?	伊藤 隆太	17
私の見たターミノロジー	竹森 利清	18
専門用語の誕生	牧野 正久	20
情報学基礎から見た専門用語	藤原 譲	22
ターミノロジー考	中村 欽男	23
私の見たターミノロジー—なんとおっしゃる兎さん	竹内 寿	24
「学術用語集 化学編」についての雑感	畑 一夫	25
地震学の二つの基本的用語をめぐる	宇津 徳治	27
私の見たターミノロジー	高橋 裕	29
専門用語辞典編纂における私の見たターミノロジー	三位 信夫	31
電気工学専門用語としてのターミノロジー	正田 英介	32
「文部省学術用語集 気象学編(増補版)」作成作業の経験から	田宮 兵衛	34
Terminology についての再認識—TKE' 96およびWSに参加して—	石川 徹也	36
投稿規定・研究会案内・編集後記		38

No. 13 1997-03

第10回専門用語シンポジウム：脳と用語から		
能動的視覚処理の神経回路モデル	福島 邦彦	1
知識獲得とオントロジー構築	西田 豊明	10
用語間の意味関係の自己組織化	藤原 譲	16
情報流通と分類法の役割およびその体系	石川 徹也	21
「分類語彙表」の構築	中野 洋	27
TKE' 96にいたる最近のターミノロジー研究	仲本秀四郎	35
スイス連邦官房ターミノロジー課訪問記	春山 曉美	46
JIS 用語制定の動き 1996		48
投稿規定		50

No. 14 1997-08

特集：ローマ字問題を考える		
日本におけるローマ字の現状	柴田 武	1
ローマ字の正書法	ヤマサキ セイコー	6
ローマ字による学術用語の書き表し方	青戸 邦夫	10
ローマ字問題を考える	井口 昌平	17
ローマ字問題について	竹森 利清	24
「特集：ローマ字問題を考える」への後書き	太田 泰弘	26
編集後記・投稿規定		27

No. 15 1998-03

第11回専門用語シンポジウム：知識の自己組織化と専門用語から		
「専門用語研究」としての「専門用語」研究	影浦 峯	1
データ共有と発掘の新展開	西尾章治郎	8
テキストからの情報・知識の獲得と自然言語処理	辻井 潤一	14
JICST シソーラスの改訂	永井 賢吉	20

印象語の地図—マルチメディア情報の感性検索—	加藤 俊一	25
ISO/TC37におけるターミノロジーの原理	山本 昭	29
地図学用語辞典(増補改訂版)発刊の経緯		
—地図用語専門部会の発足から現在まで—	坂戸 直輝	32
国内刊行専門用語辞典リスト(1997)		37
国内刊行用語辞典リスト 電子版		45
JIS 用語制定の動き 1997		47
投稿規定・編集後記		50

No. 16 1998-08

「学術用語集 計測工学編」の改訂と増補	山崎 弘郎	1
「学術用語集 図書館情報学編」改訂の経緯	上田 修一	7
「学術用語集 言語学編」紹介	宮島 達夫	13
文法用語と語学教育(フランス語を中心に)	青木 三郎	15
中国全国自然科学名詞審査決定委員会の紹介	李青・行武かおり	18
国内刊行専門用語辞典リスト(1998 前半)		20
「専門用語研究」投稿規定		25
編集後記		26

No. 17 1999-02

文字シンポジウムから		
文字概説	矢島 文夫	1
日本語表記	石井 久雄	7
漢字の構造を考える—コンピュータの入力・検索の視点から—	松岡 栄志	15
脳と文字	杉下 守弘	22
漢字コードについて	宮澤 彰	25
専門用語集の編集と活用		
—用語集超活用ソフトHT <sup>3</sup> (イティイ-スリ-)の利用効果—	貝島 良太	31
外字の作成事例:『広辞苑』を中心に	上野 真志	38
国内刊行専門用語辞典リスト(1998 後半)		42
JIS 用語規格制定の動き 1998		48
編集後記		52

No. 18 1999-09

二つの工夫+α—『岩波理化学辞典第5版』の和文索引	堺 信幸	1
シリーズ特集:分野別専門用語集①図書館学	山本 昭・落合佐和子	3
シリーズ特集:Terminology 素朴な疑問—概念に関するxつの疑問—		
①学術用語集は用語集か?	四ノ宮明夫	9
②1概念に1用語?	中山 亮一	10
③用語はなぜ名詞形ばかりなのか?	中山 亮一	11
国内刊行用語辞典リスト(1999 前半)		12
『専門用語研究』バックナンバー紹介		17
1999年度専門用語研究会シンポジウムご案内		22
投稿規定		24
編集後記		25

～第12回(1999年度)専門用語研究会シンポジウム ご案内～

---

## 東アジアにおける専門用語研究の新しい動向

---

趣旨：専門用語研究は、従来ヨーロッパ諸国で積極的に行われてきました。1990年代に入り、東アジア地域、特にわが国、および中国、韓国など母国語で漢字を用いる国において積極的かつ大規模な研究・開発が行われつつあります。1997年には、これらの国の国際的な専門用語の統一化や文書の電子化を中心に向けた研究団体として、モンゴルなどを含め、EATerm(East Asia Forum on Terminology)が組織され、第1回の会議が中国で開催されました。2001年にはEATermは日本で開催される予定になっています。

当シンポジウムでは、上述の東アジア地域での専門用語研究の進展に鑑み、中国、韓国からの4名の特別講演者を招き、電子辞書開発および専門用語の最新のトピックについて講演を行うものです。専門用語にかかわる多数の方のご参加を歓迎いたします。

日時：1999年11月13日(土) 10:30 - 17:35 (受付 9:30～)

会場：国立国語研究所 講堂

東京都北区西が丘3-9-14

都営三田線板橋本町下車 徒歩10分

JR埼京線十条駅下車 徒歩20分

Tel. 03-3900-3111 Fax. 03-3906-3530

主催：日本学術会議(学術文献情報研究連絡専門委員会)

専門用語研究会

情報知識学会

資料代：会員 3,000円 一般 3,000円 学生 1,500円

なお、懇親会参加者は別途5,000円。当日受付もいたします。

申込方法：次ページ申込書(コピー可)で、専門用語研究会まで郵送またはFaxでお申込みください。

お申込み・お問い合わせは **専門用語研究会**

〒102-0082東京都千代田区一番町4-6 一番町中央ビル2F

日本総合技術研究所(JIST)内

Tel. 03-3262-8956 Fax. 03-3262-8960

プログラム

時 間	内 容 ・ 講 師
10:30-10:35	開会挨拶
10:35-11:05	一般講演 概念間の全体--部分関係に関する一考察 細野 公男氏 (慶応義塾大学教授)
11:05-11:35	一般講演 電子化された世界大百科事典 龍澤 武氏 (日立デジタル平凡社)
11:35-12:05	一般講演 Study of Terminology from Application to Theory --Contributions of Automatic Term Recognition-- 影浦 峽氏 (学術情報センター)
12:05-13:15	(昼 食)
13:15-14:45	特別講演 中国における専門用語研究の現在、未来 (仮題) 矯 云起氏 (中国標準化・情報分類コード研究所長)
	特別講演 Medical Terminology in the Compilation of Encyclopedia 全 如 瑛氏 (中国大百科全書出版社)
14:45-15:15	一般講演 国際医薬用語MedDRA 手塚 玲二氏 (日本公定書協会)
15:15-15:30	(コヒレブイク)
15:30-17:00	特別講演 韓国における専門用語の研究動向 (仮題) 崔杞鮮氏 他 (韓国科学技術院専門用語言語工学研究センター長)
	特別講演 未定 (韓国)
17:00-17:30	特別講演 用語間の意味関係表現形式に基づく知識構造化機構 藤原 讓氏 (神奈川大学教授)
17:35	閉会挨拶
17:40-18:00	専門用語研究会総会
18:00-20:00	懇親会

注) 講演の順序は変更する可能性があります。

-----切 取 線-----

専門用語研究会行 (Fax. 03-3262-8960)

**1999年度専門用語研究会シンポジウム 参加申込書**  
(東アジアにおける専門用語研究の新しい動向)

氏 名			
機関名			
連絡先住所	〒		
Tel:	-	-	Fax: - -
E-mail:			
懇親会出欠	<input type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席	領収書	<input type="checkbox"/> 要 (機関名) <input type="checkbox"/> 要 (個人名) <input type="checkbox"/> 不要



編集後記

◆「理化学辞典」紹介への補足

「理化学辞典」の新版が出たのでその紹介記事を依頼することになったが、なかなか書いてもらえない。担当責任者が、少しの休みもなく別の辞典の仕上げに没入してしまったことがその理由であった。ようやく寄稿を受けて、責を果たしたとほっとした。

実は一つ前の第四版は、項目の採否をすべてやかましく吟味して、少しでもコンパクトにしようと、さまざまな圧縮を行った。若い人に利用してもらうため安くしようと努めたからであった。各項目に必ず英・仏・独・露語を掲げていたのを、主要語以外は英語のみに減らしたのもその一つであった。これで頁数を相当節約したが、ドイツ語やロシア語を大切にする方々からおこごとがきつかった。ミニマム・エッセンシャルにと努めてできあがった第四版は、日常使ってみて、やはり少し不親切だったと思うことが多かった。

その点新しい第五版は全体的に少しふっくらとふくらんだ。堺さんが紹介された、隠れていた多くの項目名にアプローチできるように工夫したのもその一つで、良いことであったと思う。

「理化学辞典」は、初版の石原純先生編集以来、学術用語の日本語としての規範になることをめざしてきた。戦後の当用漢字・常用漢字の枠にどう対応するか、どの版も苦労した。第三版が物理学や化学の「学術用語集」に一番順応した版である。第四版では非常に討論をした末に、ほんの少し文部省用語の外に窓を作った程度であった。第五版での対応の変化は、利用していてしかと気づかなかったが、堺さんの紹介によって、元素名の表記のような基本的なところにも大きな変化があったことに気付いた。良い紹介をしてもらえたと喜んでいいる。(牧野)

◆日本語による表現問題の何点かに対する短い感想

今時の若者の言葉は、大人にとってわからないと言われるけれども、これも仲間うちだけで通用するものと考えれば、時と共に、それらは死語となり、いくつかは一般化する。この現象は、別に珍しいものではなく、誰でも知っている例で説明すれば、初めはテレビ局で番組を収録する際

に、スタジオの都合等でオーケストラを入れられずに、前もって録音しておいた音楽で歌手に歌わせる時、「今日はオーケストラが無い。空(から)」の意味で「カラオケでいきます」といった業界仲間の用語がその起りである。仮名という表音文字が存在し、どこで単語の表記を切ってもつながることから、テレカ、コンビニ等、実に容易に誠に変な日本語の単語が造られてしまう結果となる。

一方で、順を逆にする例も多い。ある連中が、種(タネ)を「ネタ」と隠語にしたはずが、今では、語源を詮索せずに、両者をほぼ同等に使用している。省エネも言葉としてはおかしい。

日本中歩いてても、ここで日本語が通ずるか心配する店はない。それだけ多人数が1言語を共有していることになる。それと村社会という分析から、特に相手にわからせる努力は必要ない、強く言いすぎるのは失礼だとなる様である。この辺りから、日本語が曖昧である原因が発生したとの考えの根拠が一つ出てくる。

その反面、電車や駅のアナウンスは誠にうるさい位にしつこい。ここでもう一つ、事故が起きた時に、あれほど言っておいたのにという責任を回避する心理からとの見方が成り立つ。この視点に立つと、日本語の文の終わり、結びで、「・・・ではなかろうか?」が実に多いことに気づく。話し言葉で、「・・・じゃないですか」もかなり耳にする。一面へりくだった表現と言えるが、「そうだよね、そうとってくれるよね」と自分を表には出さず、妙に他人に媚びる無責任な表現になると私には思えてならないので、大変に不快であり、私は使用しない。(中山)

編集委員会委員

太田 泰弘	文教大学
四ノ宮明夫	大正製薬
戸塚 隆哉	KMK デジテックス (委員長)
仲本秀四郎	I R I S
中山 亮一	リョウ・プロダクション
牧野 正久	東京理科大学
山下 泰弘	電気通信大学
山本 昭	国学院大学

専門用語研究 第18号

(1999年9月30日発行)

発行所 専門用語研究会

〒102-0082東京都千代田区一番町4-6

一番町中央ビル2F

日本総合技術研究所(JIST)内

Tel. 03-3262-8956

Fax. 03-3262-8960